

● 差控出奔

一、文化二七年三月十八日法用若去井大船渡候
此先手候之旨意、在之从之若出相之及不及之候
有少所札之从之候候

但此勝手之由、因急相候之由、在候之旨意
候之由、猶遠之旨、之相候半、之旨意、
有之旨意

日姓、近江之候、立花出雲守、又從之
候、此先手候、而、跡居、
在、
作、
中、

月日亦九日法用者因法之屬既以用人
少者亦於月日於因情也所
券合何約動而後何約值中
日在何今收值中
何付在何動何初以人
必為動向之依何門出入
必在何右之德值中
尸上無也

正月廿九日

河村因情
峯岩控

在何人各勢

文化七年六月六日

御成之良本多大初与友田安
六尺和因在六酒
程不
去下野
名代
一
翌七日期六
本多大初与田
何付

中務大輔日惟之成... 相之成在色... 六月七日

六月七日

二浦和泉与

右方出... 相之成在色... 六月七日

流礼不及及...

一 如多... 相之成在色... 六月七日

五 一 文化十一年六月廿日...

九右史... 卷上

卷上

二田大隅与

小菅清... 父在右... 寻出...

右方有... 小菅清...

小菅清... 出...

御目見意急下仕旨以書有深本在更
上作渡色色事將其意以右為法請復
申上公御之

十月七日

戸田大隅守

十月九日吉山下野与根在通

去日之作出小普信但塔因之稅配
戸田八之解又其在更之娘兼在仕女在
出奈有今日進取之由致以坊見為
不中程又由身當之候進取之由去
申上

十月九日

戸田大隅守

一文化十二年九月十日羽伊達之商小補根法格之

物出款之有之由事書發出知日十日法用番
青山下野与根今日中法格之由發出家
不中程又由身當之候進取之由去
申上

御書之發出申
御書之發出申

右有出持以之浦社名与根以取之御書以月
新根以之由發出知以由取之由
新儀為六月出帳法御府在更
法腹中何法撤懸款之由仕取更以

致上物仕不意至幸恐入信之者此
之故幸何如也

九月十四日

伊達主君

一 翌十六日夕之浦和泉と和泉の所礼と心は
多感

不及者此

右は所礼と法信と動右は所礼名代三浦
和泉と和泉の動は也

七

一 文化十三年二月九日酒井若狭守所出指書
名見所宛者此和泉公用人出合所和泉日何

多如知日二日夕心出合表向心何書と和泉
心は所宛者此和泉の所礼と心は所礼名代三浦
細井和泉と和泉の所礼と心は所礼名代三浦
心は所宛者此和泉の所礼と心は所礼名代三浦
作出

西九下取及引消之御在費用不承之候
有之は乃及兼入意り有者知所御所
以貴恐入事何信之者此は後主何心也

十月十三日

和野信前

心所礼 不乃及者此

西九下取及引消之御在費用不承之候

有之日氏福前与幸同方批於秋夜七年
恐入の依く者批成幸同の以之

十二月二日

牧野玄著疏

右之通用者所於徳中其秋の場先所於徳中其秋
の屋敷く後友場并若後成方引法の成り

八
一
文化乙辰年七月十日之夜古作名在奥方批死在
柳澤伊勢と在の流矢女との後有の忘腹法届
て方知の知の是方と知の知の六の伊勢名在在
十六日夕七時也知の知の未後く四忘腹の届引
お成り有法用者批年伊勢と所の四届書名は

以忘腹の届書先之通上名不列後以忘腹の届引
之後且以忘腹の届の届引の届の届の届の届の届
名は届の知の届書先の表上と名不列且以忘腹
の届届届の届夕の届出の柳下及以出法有月
四届書名は出在の通

中川以書之校古作古書病名は知十名生
ふお叶 在十日秋去下列死在信私
在母方流矢の後有定成く忘腹法届
此後法届りて名は上

七月十七日

柳澤伊勢与

覚

一 右之月四日人抄出先手抄本之書出目及諸札

一 甲十二日在堂

所名代返教之御水戸殿少代等之者其
以前別方不形而家来不問法之度忍入
事等之傳之書和事同之

二月十日

井上勝右

新札 不及者抄

以同書出落手之書之同書出落手之

新紙

而像迂座所用和紙之書和紙而末之者
不問法之月者和事同之 在堂之書大

之書人教等之書也何和紙等之書也
事同之書也

二月十日

井上勝右

右之通之書和紙等之書也何和紙等之書也
和紙等之書也何和紙等之書也

十一 文化二五年壬八月廿三日用書云井上勝右

之書和紙等之書也何和紙等之書也
之書和紙等之書也何和紙等之書也

去年十月新紙在堂指少之書中
日不辨形之因紙人倒者一併之書也

十一

文化十年六月水野日向大坂加藤中六月
廿五日所用者野田信右衛門六月八日大坂山
所系信右衛門書之返書

但往返十八日午後五時右衛門書之返書

六月廿五日所用者

六月廿五日所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所系信右衛門書之返書

但右衛門書之六月八日所用者吉田下野

二十日所用者

右衛門所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上所用者

六月廿九日坊上所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上所用者

六月廿九日坊上所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上所用者

十二

文化十年六月廿九日坊上所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上所用者

六月廿九日坊上所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上
所用者吉田下野右衛門六月廿九日坊上所用者

奉伺の如し

六月廿日
為日付

水野日向子

名代

徳永小腰

四折札

不及者拒

右四折札の返大坂表に「」字を先送りは列在動

中

十一

文化十周年八月三日朝日新聞掲載所信不届の指子に
務垣若狭子組より「成行」事同着拒後大坂
表に「成行」字を先送りは列在動

紙端の如くお送り下さいませ

書面お拒り成大坂は機代「」未

お伺い不及は拒り成大坂は機代「」未

右の書面は拒り成大坂は機代「」未

十五 文化十周年八月三日日新聞掲載所信不届の指子

紙中書面拒り成大坂は機代「」未

忌日書面拒り成大坂は機代「」未

忌日書面拒り成大坂は機代「」未

忌日書面拒り成大坂は機代「」未

忌日書面拒り成大坂は機代「」未

口之相遠任事守中揚座
之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬

八月四日

荒川二節右馬

大目月井上勇徳字格
任事与格上
任事与格上

八月四日

荒川二節右馬

口九月廿日永田酒造
口九月廿日永田酒造

忠右馬
忠右馬

九月二日

忠右馬
忠右馬

加茂城中与家来

市道海之御文院在

市道忠右馬

口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬
口之任候知事三日忠右馬

西石尾 舟行 十里四方 進致 舟行

如後 穢中 舟行

荒川 二岸 舟行

市遠志 舟行 彼之 松年 舟行 舟行 舟行 舟行
右之 通下 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行

先運 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
穢中 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行

仙渡 穢中 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行

如後 穢中 舟行

九月二日

荒川 二岸 舟行

右舟 大目 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行

如後 穢中 舟行

九月二日

右舟 舟行

右舟 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行
舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行 舟行

若次為細石佐月終之實整了了如の遍例
おん子しんたりのしんるもとのおん子のついでに
おん子のついでに

九月二日

おん子のついでに今日と

おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と

九月二日

おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と

おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と

おん子のついでに今日と

九月二日

おん子のついでに今日と

九月二日

おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と
おん子のついでに今日と

在野大目村及在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

加茂城中与取集

九月六日

荒川之南右史

在野大目村及在野北山邊階札云々

十六 文化六年三月廿年終迄与取下法用者物野

佐前与取下法用者

三月十日夜法用者物野佐前与取下法用者

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

在野北山邊階札云々

漢大之續... 侯... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 侯... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

右通書... 侯... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

十七一 明和六年... 侯... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 侯... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...
 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

和帝馬... 丹... 但... 長...

但... 長...

十八一 寬政七卯年九月十二日... 和帝...

和帝... 長...

和帝...

和帝... 長...

十九一 享和元年六月廿日

和帝... 長...

吾知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
若安及致馬之疾也猶子也而居海井津書信
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
以知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也

讀書行記

若知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣

右之通也因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也

七 享和二年二月五日小菅清有馬一宗和申
少性井之陸流と戸との是速ら江戸拂抄於
四指し之の如知也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也
之知世間多如方之憂者有之此之憂者必多矣
此因之也若知何如皆知也若知何如皆知也

七 文化六年四月十日用者青六字野之原抄

在右殿腹の面書 茶右延引く法出右の符若北
候書之通入は因沈知若右の符若北殿腹の面
茶候書之表上 茶右殿腹の面書若北殿腹の面
茶右殿腹の面書若北殿腹の面書若北殿腹の面書
P字の

私書母方の候書女書合所書坊田之程
書病身之知書生ふ若叶去七日卯
上列死法候儀之定式之忌腹取之通

信Pの

正月三日

正月七日未

正月七日未

正月七日未

右之通由若右世後法局P之云候之

正月十日

松平之白書

白丸安度野馬与候 末之方

右之通法用若候 由若右P之云候世後

以使者P之云候之

正月十日

松平之白書

右合所書坊田之程書女書合所書坊田之程
松平小十郎若右方之妹若右書母方候書女
由若右知之程書女今年之別若知若候書
由若右知之程書女今年之別若知若候書

正月十日

松平之白書

為九書度折末之方

此後諸國若欲上上之方以促志上之志

四月十日

松平三月十日

聖上日嘗耐比善心候不今日申是人之事如左
申來臣別家之知事内政事若及相圖書表上
官前在在令之日所被在在官内為右側出
以事手三浦和泉寺相上之若事以付是方之候事
候書表出之長候入下之若事候以好之無事候
度度申之在後出之傳候上之若事以付初之申
比候書上之若事候臣別家所札上之若事及若事
比之候事候初之若事候此傳系此候之候

私養母方道大女房合所養候因
之程書死在仕和忌腹出而延引
仕候事候入傳之若事候候事候
候之

四月十日

松平三月十日

臣別家所札不及若事候
右口所札在後出之傳候上之若事以付初之申
以以上書表上之若事候初之若事候此傳系此候之候
如右所傳之若事候此傳系此候之候
私儀若事候候事候候事候不乃若事候
候事候候事候候事候候事候候事候候事候

右通札名代名

似年三月廿四日

名代

三浦和泉

七二一 文化七年九月十八日通用者六井大股既

少先子極板友系免極名名名

即十七日紅葉

御系消下作出知初後脂襟少名

豫系系出出少名後通而少名上名入

好名係少名名名名名名

九月十八日

安後對馬守

右通通名名名名十九日少先子名名名名名名

少通札名代名

名名名名名名

右通通名名名名名名名名名名名名名名名名

似年能名名名名名名

七三一 文化十三日子日通用者名名名名名名

似年能名名名名名名名名名名名名名名名名

似年能名名名名名名名名名名名名名名名名

似年能名名名名名名名名名名名名名名名名

痲症之寒流引菟在春告知為月十日
夜風乍起不知清和知為月十日若日子
右系兼秋秋夜方易知清和之公為之
場和日之知秋之清和今秋知清和知下
以若在十日右系方不兼知清和知下
清和月十日之

八月廿九日

柳原秋中身

右大小四日知秋之清和知下

廿一 文化十二年八月十三日清用番去并大能知秋

山名之清和知秋之清和知下

日姓大能知秋之清和知下
之清和知秋之清和知下
清和

八月十三日

小笠原信清身

日三日用番知秋之清和知下
清和知秋之清和知下
日六日用番知秋之清和知下

小笠原信清身

清和遠之知秋之清和知下
右之知秋之清和知下
以秋清和知秋之清和知下

諸君 不乃若也

其一天明六年十月十二日通用若水野出羽後四日
夜候之云云也

社立不戒前至教皇御居不鞠山陳屋是燈
長屋介云二日堂七列出火自風烈發陳屋
向一時大梅の陳屋并侍屋發是恒也屋
亦燒矣仕實刻之太陰中始也而是程也

常憲院標

文昭院標

有德院標

博任院標

所先代

公方標右

所代之標 所系不頂裁仕而持經書如
明和九年出火之長江後屋發燒矣之
柳而く持退知少く免後院也其月以未
江戸表之屋也其火災く是先も其
地子幸好右陳屋下屋並法中者也

手為不月其不知也

所系不不發燒矣仕也

所系不不出一下月之來未人燈上

忍入石者止後死後後在石下成也知
仕豫以為感之後身恐入之儀一別紙在
之儀身同之儀以順四角下之儀

十月十六日

酒井元清

別紙

私立所裁和國教賢那鞠山陳至是後卷
去二日出火仕也

常憲院標

文昭院標

有徳院標

惇信院標

公方標 御代々先祖々後載々

御身不不踐燒文仕儀以在忍入儀

私立所裁之儀身同之儀

十月十六日

酒井元清

相立十六日通禮

不及方標

七七一 文化七年年二月三日秋二奉付之下儀新奇所下在

隱居雖山徑居分大外於燒成者之月日向与
若和佩書法用若去并大如以儀之儀
内分出火月日人儀若和佩儀之儀

初五日夕下野と候。此本九条史指の字あり通
少政礼の儀より候。此等史指の字あり。此等史指
指の如く。此の字あり。此の字あり。

少政礼
ふ乃及者指

右の字下野と候。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
文書

七九一

文化の辰年正月十日。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
今朝雅樂の登。城に仕用。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。

此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。

正月

酒井雅樂の登
田中権次郎

初五日夕下野と候。

此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。

七

文化の辰年正月十日。此の字あり。此の字あり。此の字あり。
此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。此の字あり。

西九寄着封子多原、香西名代、山口礼部有之

能坊、家世席

廿二 一 享和二年六月廿三日用着封子多原、香西名代、山口礼部有之

永吉好、位後、形、忘明、之、重

和年、河波与

父大娘改改明和年中、所、不、具、之、成、有、之、
限、后、之、作、符、以、以、未、多、年、若、北、信、在、之、
去年、各、近、因、形、之、之、之、之、之、
河、用、以、知、之、信、改、年、
也、之、之、大、娘、改、改、及、至、年、之、近、也、信、在、之、之、

不、使、之、年、之、思、在、之、符、若、北、之、名、之、
所、究、之、之、若、之、之、将、其、名、之、

廿三 一 文化十一年三月十日用着封子多原、香西名代、山口礼部有之

云、博、抄、形、在、之、之、之、

以、小、性、组、和、年、之、之、之、之、之、之、之、之、
不、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
思、入、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
若、北、之、之、之、之、

二月十日

京控加、之、之、

右、通、官、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

文修出在卷九の从補字の付の代簡抄事
其法用書抄汁の印の如

社殿見此卷の書抄部の注事知若抄事
奉伺の候事書大の良人の教書抄の候事何如
公の事下り此法候事伺の事

三月十日 系抄の候事

書而し通し取次と云ふ事知様十右等と云ふ迄
の法候事有し近事書大の良人の教書抄の候事
何如

大小の目録取候事候事為り此法士使出の事

廿四一 文化十二年二月十二日法用書抄部御前書候事

候事此の先手抄と云ふ事書大の良人の代
三浦抄事と云ふ事抄部御前書候事

去十七日井上重信書及 御朱の者も右候
而も書候抄事書候事候事不風候事有し候事
候事致直候事書候事書大の良人の代
候事書大の良人の代候事書大の良人の代
候事書大の良人の代候事書大の良人の代

三月十日 系抄の候事

書候事
不及書候事

世立一 天明元年七月廿九日 用着松平右衛門大次郎
出立通

松平能成与長崎巡見右衛門國之月使
者出立一紙目録使若与知右使者
不在家知出立遠方之申之与至五程
幸忍入信之若知者伺之

七月廿九日

稻葉丹後与

日夕大氣安定候 丹後与所上在候之通 出立書付
与如出立大目付之松平能成与在出立

稻葉丹後与

八月廿九日 用着松平能成与長崎巡見

松平能成与不在家知出立一紙目録
出立書付之通 出立書付
作付

世立一 文化二年三月廿六日

松平能成与不在家知出立一紙目録
出立書付之通 出立書付
作付

三月廿六日

戸田能成与

松平能成与不在家知出立一紙目録
出立書付之通 出立書付
作付

右ノ通シテ...

二月

西九尾書院蔵石川吉徳書信本四年八月
不備法之儀少有月事十ノ通案

作有忍入幸海新日性儀有書和事
何ハ...

二月十九日

本多政政

別紙同出及...

忠濟為承分方知... 書... 和事

世九一 寛政十二年六月十六日

市橋下編... 和事

去巳年十月十九日二條

市橋下編... 和事... 及... 右...

痛市市師... 此書... 中城... 因... 此... 此... 此...

六月十六日

市橋下編

右... 此... 此...

四十一 文化四年六月九日御生但馬守

河... 通... 意... 中... 過... 著... 此... 地... 不... 引... 獲... 書... 讀... 九... 次...

此... 河... 通... 意... 中... 過... 著... 此... 地... 不... 引... 獲... 書... 讀... 九... 次...

四十二 文化六年六月廿日御用者

此... 河... 通... 意... 中... 過... 著... 此... 地... 不... 引... 獲... 書... 讀... 九... 次...

此... 河... 通... 意... 中... 過... 著... 此... 地... 不... 引... 獲... 書... 讀... 九... 次...

か大は法末家より是は相国より
後（法末家）は相国より
此の如くは後名は直に合し

相年花錦書

二月六日

小谷安太郎

但天明年より及有相
出火書
信行名及為徳後

別紙 免

細川右左衛門寛政九年二月
屋敷書出火書
上は書

成 所免公右左衛門
相年花錦書

別紙 免

相年花錦書
相年花錦書
相年花錦書

相年花錦書

二月六日

小谷安太郎

四十二 文化六己酉月六日

相年花錦書
相年花錦書

尚以昔不任年值者... 佐有方者... 非若之... 昨者... 以石火矣... 去年三月三日... 佐... 玉葉... 之... 中... 二月... 獨... 為九...

二月...

獨...

尚以昔不任年值者...

四十一

文化二年三月六日... 神尾... 所目... 以...

所目... 以...

四十二

文化九年... 四月十八日... 用者...

多...

新... 今日... 佐... 以...

此後各處均用此意奉伺

戶田大隅守家來

四月六日

於本所交

四書友

不及勸早筆

四十一

文化十有年三月二日沙用若云并大昭致

四先子三甫初志与和名云云

彩後今日月至沙孔中古原席吹
遠山名中勢之上云云云云
恐入事海台依之云云

三月廿日

海口楊漢与

初五日大昭致和云云
所目見者和云云

四十二

文化十二三月五日云云

初五日初志与和名云云

一関門逼塞云云

云云云云

云云云云

四十三

云云云云

四六一 文化七年六月廿三日 沙中抄出 播子 乃西知朱

昨日西九日 抄出 仕上 仕出 知 抄出 稿子
有出仕 抄出 書 乃出 上 知 抄出 稿子
途中 病 家 途 列 仕 事 恐 入 仕 係 乃 抄
之 係 乃 知 乃 及 之 係 乃 知 乃 抄 出 稿
之 作 乃 知 乃 仕 公 事 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿
右 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

因但馬乃使名

六月廿三日

四九一 文政元年九月廿日 臣 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

大 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿
乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿
乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿
乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

九月廿日

板金仔德与

乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

右 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿
乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿 乃 抄 出 稿

謀之亦容易後後又如此方教有
之如云云後者看後也後日後日
必令其進方乃其言其後卒元之至其利而
事之極之者後也其 作本以爲帶之
如情如知也其以
所宿先 所目通在也其 作本

本或或教也

酒井在也其後也後也後也中川
部之部也其後也後也後也後也
其後也其後也其後也其後也其後也
而之也 謀之亦容易也其後也其後也

方教之者也其後也其後也其後也
部之部也其後也其後也其後也其後也
其後也其後也其後也其後也其後也
但何之也 所目通在也其後也其後也

五十一

寛政四子三月九日所用若和年和泉之取也其
所包中其利和泉之取也其後也其後也其後也
大和之取也其後也其後也其後也其後也

小菅信

遊友在東京也

伊奈平十郎

名氏
堀須九郎

年十席

日 小三席

名氏
野山友之助

本家伊奈右衛門中重之右衛門
有之月君意氣心仕立家下
侍行切實
沙嘴惣之知形少後天
石上家
移念因防与方之概在仕之在立
上 作出之御免是御果代之御切也
有之及血脈之半之我之切實小三席
名氏

千石之末御家右衛門中重之右衛門
作有之御免是御果代之御切也
有之及血脈之半之我之切實小三席
名氏

四十二
寛政己子二月九日
用者松平和重
御免是御果代之御切也
名氏

伊奈右衛門中重之右衛門
有之月君意氣心仕立家下
侍行切實
沙嘴惣之知形少後天
石上家
移念因防与方之概在仕之在立
上 作出之御免是御果代之御切也
有之及血脈之半之我之切實小三席
名氏

勤切も有るは度候へ 所宥好く御座候と
取知新に發之 古之實家之體所不
在立言云 作出は猶尤も程に事々勤切
と云ふ 忠臣未だ御侍系年十郎也願侍系
小三郎は新故十衣下小重法入被家
相續一有被言云 作出小三郎中 也
在立言是近之任后上引被言中
是又累代相續以用向相勤事 三月
家未方限よりも多々被言小三郎
未若事々事々 石家未方限より
之被言中 相續以用向相勤事 三月

上子若加是之 相續之被言中 也
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月
相續以用向相勤事 三月

但口年四月廿九日御系事候為 於殿

正補志、以年甲斐等、其下、若、其、後、而、有、

五十三

文政二年十月十日、用、若、所、給、傳、中、之、所、以、先、

子、伯、名、原、前、知、相、是、亦、六、日、夕、之、浦、指、心、以、所、給、也、

板、倉、甲、斐、等、之、書、在、其、仕、付、以、年、乙、未、所、贈、

續、出、之、所、知、方、不、以、而、以、而、及、延、引、

以、後、其、思、入、以、甲、斐、等、之、仕、付、中、有、其、所、給、也、

其、何、也、之、

十月十日

乙浦和泉与

不及、若、其、所、後、入、其、所、先、也、

所、給、也、

一、用、若、所、給、傳、中、之、所、以、先、

一、笔、破、上、仕、付、在、月、廿、日、新、書、在、其、仕、付、也、

以、年、乙、未、所、贈、也、其、所、知、方、不、以、而、以、而、及、延、引、

和、泉、号、若、其、所、知、方、不、以、而、以、而、及、延、引、

入、其、所、先、也、其、所、知、方、不、以、而、以、而、及、延、引、

以、後、其、思、入、以、甲、斐、等、之、仕、付、中、有、其、所、給、也、

其、何、也、之、

三月十日

大板日附

板倉甲斐等

所、給、傳、中、之、所、以、先、

其、何、也、之、

二十五 文化十二年三月廿七日所用若酒井若獲等以備功
以舟戸田法路等取若北西伺子及之候に依りて
若西修建之候に由りて修建之方有之

二十五 寛政十三年三月十日井上内膳忠直和信松城法
法用米也勘定方足分有之如生所也分蔵下
上居也石敷取揃有之方計り以分漸之候
以右也取揃候者取上城造之部有之

二十六 寛政八年二月九日夜沙羅出火翌朝所用若
伯希等取上右右取揃候出出御伯希等取

若取出右之通

新居取出右取揃出火仕表長屋表
門通表の取揃出火仕表長屋表
下居甲斐等下居取揃出火仕表長屋表
燒爰仕候儀心使着沙羅下居取揃

大工保志等子使着

十一月十日 法外上等取揃

新居取出右取揃出火仕表長屋表
門通表の取揃出火仕表長屋表
下居甲斐等下居取揃出火仕表長屋表
燒爰仕候儀心使着沙羅下居取揃

二月十日

大久保志摩

遊花不及岩折

山用若仔細看其山向在道

昨九日初日白園口甚大之保志摩曾遊
出火仕知口和山下屋敷在東方外園地
二十六間余致燒仕此後山向在道

二月十日

大久保志摩

山月有松年交實松山向在道

昨九日初日白園口甚大之保志摩曾遊
及不出火仕知口和山向在道
和山根後消月破快仕其外列系云

山月有松年交實松山向在道

大久保志摩

二月十日

大久保志摩

二十七

文化四丁卯年二月七日右田拾遺与松山向在道
右一右吏と荒尾但馬与松山向在道
七日山用若古井大破後山向在道
殊和山向在道
并例出松山向在道

但山月有松年交實松山向在道
右一右吏と荒尾但馬与松山向在道
公移人里中作在吏山向在道

山月有松年交實松山向在道

私承朱漢田在(一)處(二)者(三)姓(四)聲(五)稱(六)
公(七)仲(八)子(九)承(十)承(十一)而(十二)川(十三)流(十四)六(十五)歲(十六)死(十七)去(十八)後(十九)以(二十)人
志(二十一)子(二十二)任(二十三)在(二十四)忠(二十五)誠(二十六)守(二十七)其(二十八)志(二十九)以(三十)承
子(三十一)年(三十二)八(三十三)月(三十四)中(三十五)故(三十六)出(三十七)奔(三十八)死(三十九)女(四十)年(四十一)身(四十二)家(四十三)自(四十四)引(四十五)波
如(四十六)如(四十七)知(四十八)主(四十九)御(五十)主(五十一)在(五十二)忠(五十三)誠(五十四)守(五十五)其(五十六)志(五十七)以(五十八)承
子(五十九)年(六十)八(六十一)月(六十二)中(六十三)故(六十四)出(六十五)奔(六十六)死(六十七)女(六十八)年(六十九)身(七十)家(七十一)自(七十二)引(七十三)波
如(七十四)如(七十五)知(七十六)主(七十七)御(七十八)主(七十九)在(八十)忠(八十一)誠(八十二)守(八十三)其(八十四)志(八十五)以(八十六)承
子(八十七)年(八十八)八(八十九)月(九十)中(九十一)故(九十二)出(九十三)奔(九十四)死(九十五)女(九十六)年(九十七)身(九十八)家(九十九)自(一百)引(一百一十)波
如(一百一十一)如(一百一十二)知(一百一十三)主(一百一十四)御(一百一十五)主(一百一十六)在(一百一十七)忠(一百一十八)誠(一百一十九)守(一百二十)其(一百二十一)志(一百二十二)以(一百二十三)承

二(一)目(二)之(三)全(四)部(五)店(六)編(七)寫(八)屋(九)文(十)三(十一)所(十二)為(十三)子(十四)控
之(十五)尸(十六)控(十七)女(十八)控(十九)事(二十)公(二十一)好(二十二)事(二十三)由(二十四)付(二十五)去(二十六)宣
口(二十七)身(二十八)身(二十九)系(三十)係(三十一)之(三十二)在(三十三)身(三十四)中(三十五)知(三十六)為(三十七)時
後(三十八)某(三十九)田(四十)町(四十一)在(四十二)下(四十三)目(四十四)女(四十五)人(四十六)但(四十七)打(四十八)在(四十九)後(五十)處(五十一)由(五十二)之
尸(五十三)者(五十四)人(五十五)之(五十六)控(五十七)不(五十八)引(五十九)文(六十)在(六十一)身(六十二)中(六十三)由(六十四)付(六十五)在(六十六)新
後(六十七)發(六十八)在(六十九)公(七十)好(七十一)事(七十二)由(七十三)付(七十四)去(七十五)宣
口(七十六)身(七十七)身(七十八)系(七十九)係(八十)之(八十一)在(八十二)身(八十三)中(八十四)知(八十五)為(八十六)時
後(八十七)某(八十八)田(八十九)町(九十)在(九十一)下(九十二)目(九十三)女(九十四)人(九十五)但(九十六)打(九十七)在(九十八)後(九十九)處(一百)由(一百一十)之
尸(一百一十一)者(一百一十二)人(一百一十三)之(一百一十四)控(一百一十五)不(一百一十六)引(一百一十七)文(一百一十八)在(一百一十九)身(一百二十)中(一百二十一)由(一百二十二)付(一百二十三)在(一百二十四)新
後(一百二十五)發(一百二十六)在(一百二十七)公(一百二十八)好(一百二十九)事(一百三十)由(一百三十一)付(一百三十二)去(一百三十三)宣
口(一百三十四)身(一百三十五)身(一百三十六)系(一百三十七)係(一百三十八)之(一百三十九)在(一百四十)身(一百四十一)中(一百四十二)知(一百四十三)為(一百四十四)時
後(一百四十五)某(一百四十六)田(一百四十七)町(一百四十八)在(一百四十九)下(一百五十)目(一百五十一)女(一百五十二)人(一百五十三)但(一百五十四)打(一百五十五)在(一百五十六)後(一百五十七)處(一百五十八)由(一百五十九)之

新調進の務 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 俸も在り 出り 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 得之 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 我多信 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 老表向 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 下如 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 十以 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 外行 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 乃夕 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 二月七日
 右田 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後

列紙例書

宝曆六年 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後

大和乃如後

月八 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後

乃如後

明和七年 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後
 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後 乃如後

乃如後

乃如後

右通志例也
不任心之

二月七日

梅津審人

右田梅津

[Faint, illegible handwritten text]



